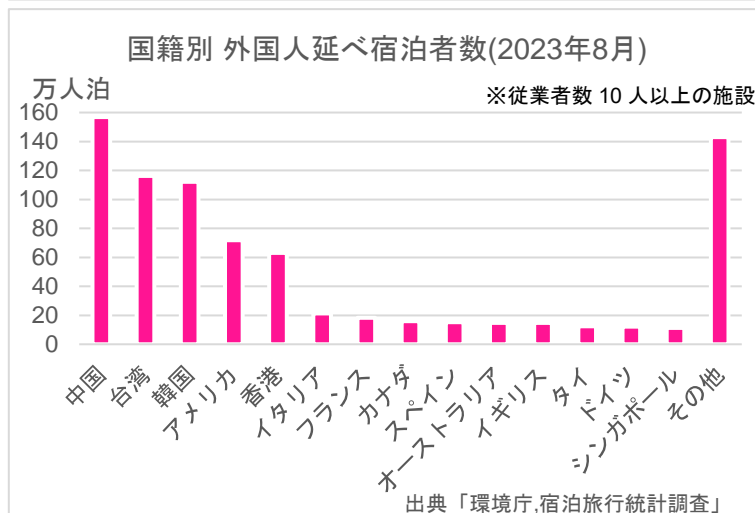
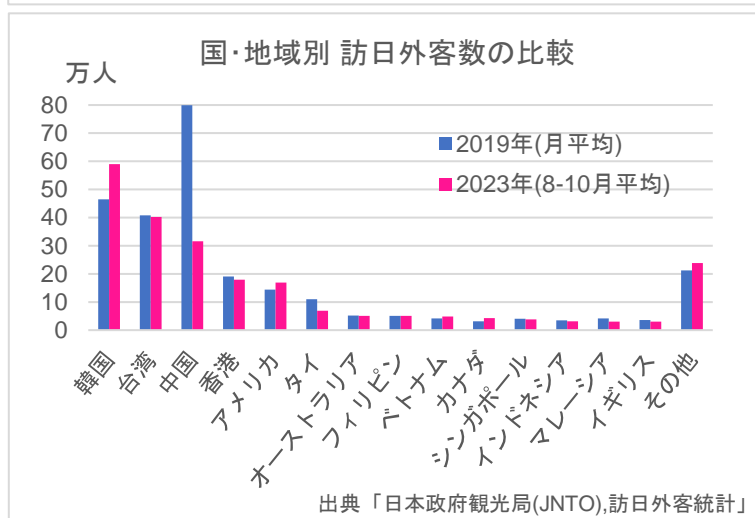
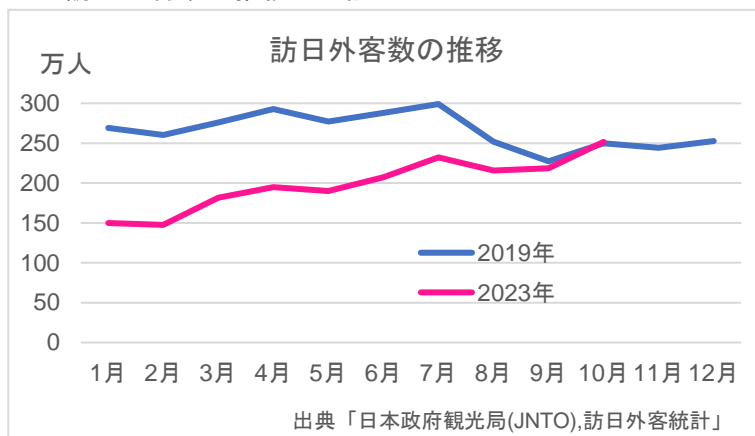


## コロナ後のインバウンド

コロナ収束により訪日外国人が増え、テレビではインバウンドの回復が盛んに報道されています。そこで、今回のCBCA NEWSでは、コロナ前の2019年と直近の状況を比較し、インバウンドの変遷について簡潔にまとめてみます。

### 🚩 訪日外客数の推移と内訳



まずは、コロナ前の2019年と今年2023年の訪日外客数の推移を比較してみましょう。

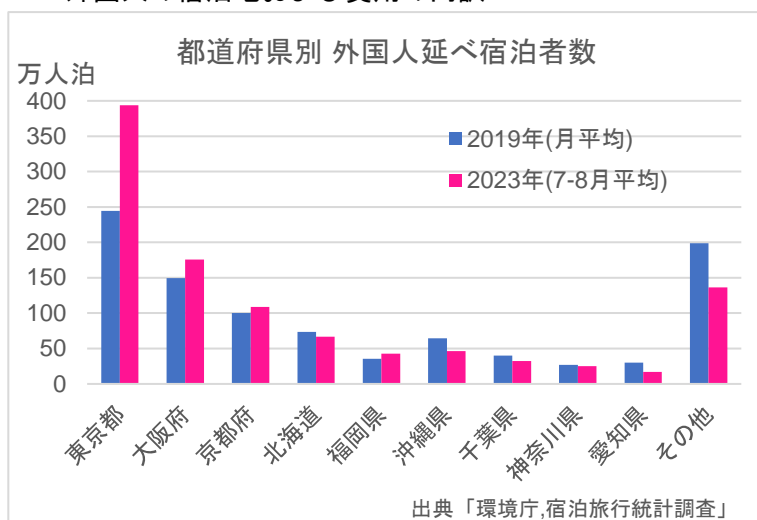
2023年の訪日外客数は、春以降回復が顕著です。この10月は、単月で今年最多の251万6500人となり、ついに2019年の同月の水準を上回りました。訪日外客数はコロナ前の水準を完全に取り戻したと言えるでしょう。

では、どの国・地域からの外客数が多いのかをみてみましょう。

2019年当時は中国が月平均で約80万人と断トツのトップでしたが、中国の経済悪化や日中関係の問題などから8~10月の平均は31万人強の水準に留まっています。反対に、日韓関係が好転しつつある韓国は増加が顕著で、8~10月の平均は約59万人でトップに躍り出ました。特筆すべきはアメリカです。増加が顕著で、今後香港からの外客数を上回る可能性も出てきました。

参考として、2023年8月単月の外国人延べ宿泊者数のグラフを左に掲載しています。韓国人は滞在期間が平均で約2泊と短期のため、宿泊者数でカウントすると3位に留まります。一方、中国人は滞在期間が平均で約4泊と長いことから、ここではトップに返り咲きます。また欧米人は、滞在期間が5~8泊と更に長いいため宿泊者数が多く、インバウンドでの存在感が増す結果となります。

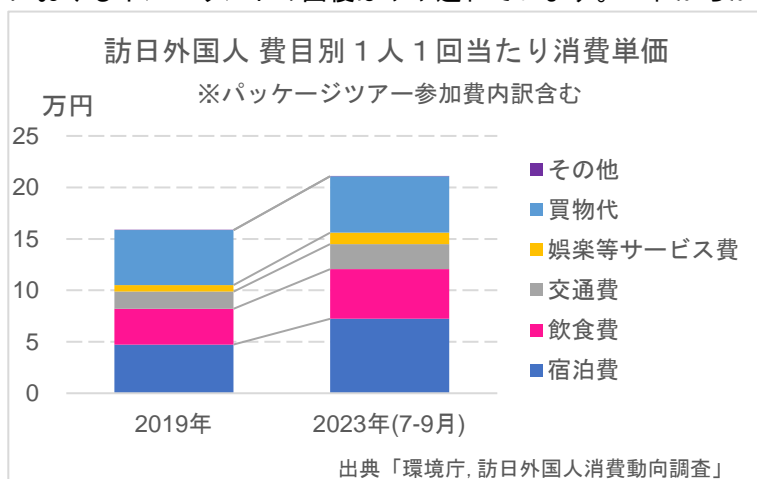
## 外国人の宿泊地および費用の内訳



今回は、外国人がどの都道府県に多く宿泊したかをみてみましょう。

今年の特徴として、東京都の宿泊者数が大きく伸びたことが目にとまります。明確な理由は分かりませんが、外国人にとっても久しぶりの海外旅行なので、まずは首都の東京が宿泊地に選ばれたのかもしれませんが。中国人の減少やアメリカ人の増加が影響している可能性もあります。また、大阪府や京都府といった外国人観光客に人気の高い関西エリアも好

調で、既に2019年の水準を上回る勢いです。こうした人気・定番エリアの集客が著しいため、一部で報道されているように、早くもオーバーツーリズムが問題視される事態となっています。一方で、地方におけるインバウンドの回復はやや遅れています。これからが本番といったところでしょうか。



最後に、外国人の消費支出の内訳をみてみましょう。費目別1人1回当たり消費単価を2019年平均と2023年7~9月平均を比べると、いずれの費目でも金額が増えています。一方で、買物代はさほど増えていません。報道されているように「物から体験」といった旅の目的の変化が見て取れます。

ただし、2019年の総額（16万円弱）を当時の為替レート（1ドル＝110円）で換算したものと、2023年の総額（約21万円）を最近の為替レート（1ドル＝145円）で換算したものと比べると、なんとどちらも1,450ドル程度になります。つまり、訪日外国人はドル換算での予算を殆ど増やしていないにもかかわらず、円安が進んだために日本国内で以前より多くの消費を楽しむことができていることになります。外国人観光客にとっては、まさに円安様さまといったところでしょうか。

多くの国がアフターコロナの物価高に悩まされていますが、そんな中見つけた「安い国ニッポン」は、外国人観光客にとって、とても魅力的な「異国」なのかもしれません。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012  
東京都港区芝大門 1-1-32  
御成門エクセレントビル 8階

TEL : 03-6459-0161 FAX : 03-6435-7717  
mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先